

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ながよ
(ユニット名)	ゆとりの家(2階)
所在地 (県・市町村名)	長崎県西彼杵郡長与町
記入者名 (管理者)	中山 博文
記入日	平成 20 年 1 月 13 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念として「安定と軽減と穏やかな生活」を大目標に、その実現として右記の5つの基本方針がある。</p>	<p>基本方針…①人としての尊厳を重視 ②ゆったりと楽しい家庭的な雰囲気づくり ③ささえ愛で、暮らしの喜びと自信 ④いつも同じ、なじみの環境 ⑤私たちは、グループ内で役割を持ち、適切な介護の継続と適切な受診及び利用者が穏やかで普通の日常生活が維持できるよう援助します</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>上記の理念を念頭に置き、各ユニットのカラーを大切にしながら、日々理念の実現に向け努力している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方へは入居時に説明を行っている。地域の方々へはもちつきなどのホームでの行事に参加してもらった際に入居者の方との関わりを持つ中で、理解していただけるように働きかけている。又、運営推進会議を開き、理念等の話を家族や地域の方々、行政に向けて理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	<p>○ 地域の方との交流…老人会、自治会等</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の方とは、会ったときには必ず挨拶を交わしているが、気軽に立ち寄ってもらえるようなつきあいをしているとは言い難い。</p>	<p>○ 散歩などの外出時には挨拶を欠かさず行き、地域の一員として良い関係が築けるように努めていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>長与保育園:運動会観戦、定期的な訪問(七夕、敬老の日等) 長与児童館:定期的な訪問(ひな祭り、敬老の日等) 長与小学校:体験学習の受け入れ</p>	

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>居宅介護支援事業所「びーぷる」は、地域の高齢者等の相談に応じ、適切なサービス及び助言を行っている。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの高齢者マップの作成をし、定期的な訪問や地震等の天災の際の安否確認 地震等の天災の際、体の不自由な方の避難場所としての施設の開放
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員が自己評価を行い、その結果を集計し、改善すべき点や不備を明らかにしている。それを踏まえたうえで今後の目標や方針を打ち出し、具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホーム全体の施設要覧を作成し、サービスの実態や評価への取り組み状況について報告・話し合いをしている。又、家族、地域や行政の方からの意見を今後のサービス向上のために活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>施設が役場のすぐ近くに立地しているため、市町村担当者のところへ相談あるいは質問に訪問したりと定期的に行き来をしている。また介護保険の更新申請も役場窓口へ直接持って行き、行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>2階ゆとりの家では、必要性を話し合った上で成年後見制度を利用されている入居者の方がいる。</p>	○	<p>制度を学ぶために研修などに積極的に参加をするなど、必要な方へ活用できるよう努めたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待が見過ごされることがないように、管理者や職員は常に注意を払っている。新聞等で虐待の記事が出ると、全階に回覧物をまわしたり、勉強会で取り上げ、全体で考える機会を作るなど、虐待の防止に取り組んでいる。</p>	○	<p>職員のストレスによる虐待防止のため、年に1回(7日間)のリフレッシュ休暇制度を導入している。職員の気持ちのリフレッシュをさせたいという運営者の考えである。</p>

グループホームながよ ゆとりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結んだり、解約をする際、利用者や家族の方は不安・疑問点を抱えていることが多いため、可能な限りの説明を行い、理解をいただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重度の認知症を抱えた利用者が多く、意見、不満、苦情を訴える入居者の方はほとんどいない。不満がある際には普段接している職員が気がけて察知し、改善することで不満の緩和を心がけている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度、「連絡メモ」として、1ヶ月の暮らしぶりや健康状態、生活上のエピソード等を担当者が一人ひとりについて書き、家族へと郵送をしている。その際に金銭管理や職員の異動、病院受診の状態の報告も合わせて行っている。また、写真も同封している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情の窓口、および担当の職員は家族の方の届く場所に掲げてあり、公的窓口も掲示し、紹介をしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度のミーティングに運営者および管理者は参加をし、職員の意見や提案を聞き、参考にしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>受診や入浴や行事等、事前に職員の人手がいる場合には勤務作成の際、それらに配慮して作成している。急に人手が必要になった際には勤務の変更にて調整をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの環境をこわさないように、職員の異動はできるだけ避けるようにし、最小限に抑えるようにしている。異動や離職によりなじみの環境が変化してしまうことは入居者の方にとってダメージがあるということは理解しているが、職員の個々の理由があるため、離職は避けられないこともある。</p>	

グループホームながよ ゆとりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に一度の勉強会での、課題・事例発表を行い、職員の段階的なスキルアップを図っている。また、積極的に外部研修会への参加、資格の取得などを推進するなど、育成の計画を立てている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月に一度の勉強会に他事業所の方を招いたり、他事業所を訪問することもある。グループホーム研修会への参加は困難事例に対する成功事例も聞くことが出来、参考になる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレス軽減のため、年に1回(7日間)のリフレッシュ休暇制度を導入している。職員の気持ちのリフレッシュをさせたいという運営者の考えである。また、色々な面からストレス軽減のために福利厚生を行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者は、各職員の努力や実績、頑張っている状況を運営者に報告をしている。努力や実績が認められた上で運営者からのねぎらい、あるいは感謝の言葉があるだけで、各自向上心をもって仕事に臨めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があるとすぐに面接を行い、本人・家族の状態や意向を聴いている。一度の面接で十分に聴き取ることができなかった場合は二度、三度と面接を行い、受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>同上</p>	

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、その時の本人の状況・家族の方の意向を十分に聴いた上で、グループホームへの入居・他施設への紹介・他のサービスの利用等さまざまな可能性を熟考し、本人・家族の方にとって最適なサービスにつながるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	人見知りをしたり、入居に対して抵抗や混乱がある方に対しては、日中はグループホームで過ごしてもらい、夜は自宅へと戻る。というのを繰り返し、本人が慣れてきた状態で入居というケースが過去にあり、工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者とともに家族として生活をし、接する上で色々なことを学び、支え合って、時には家族以上の付き合いをし、喜怒哀楽を共に生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とのコミュニケーションを大事にし、要望等を素直に聞き入れ、本人がより穏やかな生活が送れるように共に助け合っている。又、単に家族と職員という関係に置かず、お互いに家族のような付き合いをし、三者が家族として生活が送れるように努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームで行っている行事への参加や面会時のサポート、外出や自宅への外泊のサポートなど、本人と家族との時間を大切にし、より良い関係が築けるよう支援をしている。また相互間の理解に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への一時帰省の援助や、本人のなじみの美容室への送迎、家族の家への送迎を行うなど、関係が途切れないように努力している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりが孤立しないように、その関係に配慮しながら、お互いが何らかの関わり合いができるよう、無理なく共同生活を送れるように努めている。日中はリビングで過ごしてもらい、お互いの顔が見れるように配慮している。		

グループホームながよ ゆとりの家

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>たとえ本人が諸事情により退所・転居となっても、定期的に職員が面会に伺い、本人や家族と会い、話をすることによって環境・関係を断ち切らないよう、これまでの良い関係を大切にしている。又、長期の入院により退所となった方は、退院後の再入所や、満床の場合には他の施設の紹介を行っている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を汲み取る努力をしている。表現することができない方には家族へ相談をしたり、本人のしてほしいと思っていることを職員同士で考え、検討している。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴は入居の際にアセスメントシートにかいてもらったり、聞き取りにて行っている。また、それを踏まえた上での入居後の経過は個人記録にて残している。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握できている。その上で日々を生活してもらっているが、良い意味でときにそれ以上の力を見せてくれるときがある。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成するにあたっては、本人の思い・家族の意向を良く聴きユニットにて話し合いをチーム全体で行い、それぞれの意見やアイデアを出し合った上で作成している。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行っている。本人の状態に変わりがあったり、変更したほうが良いという場合は時期を待たずにその都度カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。</p>		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の気付き、発言、表情、身体的な変化等は入居者個別の記録に残しており、情報を共有した上で、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望に応じて、1階にあるデイサービスを利用するなど、柔軟に支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは積極的に受け入れている。消防に関しては消防訓練や緊急時の救急搬送時に協力してもらっている。長与保育園や小中学校からの体験学習を受け入れたり、長崎純心大学の教授には認知症高齢者と施設環境ということで、グループホームながよで統計をとり、研究されている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	意向や必要があれば、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための準備はある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	意向や必要があれば、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働する準備はある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医、緊急搬送先を決定している。また、適切な受診ができるよう、援助しており、包帯の変化に伴って、医療機関の変更も相談し行っている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>各入居者の主治医は本人が認知症ということを理解されており、相談・診察、治療をしてもらっている。また、すぐに往診していただける医師や歯科医師も確保している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>入居者の体調が悪いときや、いつもと状態が違うと思われるときには、事業所内の看護師に相談をし、状態を見てもらっている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>担当の医師など、医療機関と連携をとり、本人の状態を見、家族の方と相談をしながら、なるべく早くなじみの場所へ戻ってこれるように働きかけている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、本人や家族、かかりつけ医など、さまざまな分野との話し合いが欠かせないと思う。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>生活をする場所としてのグループホームということを念頭に置き、ホームでできること・できないことを運営者、職員と話し合っていて決めている。本人のために必要な医療的ケアがある場合や、本人がおだやかに過ごせる場所が他にあると思われる場合は本人にとって一番良い方法をとりたいと思う。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退所の際には、入居中の生活情報や心身のあらゆる情報を移り住みさきの場所へ出向き、十分に情報交換をし、書面あるいは口頭で申し送り、住み替えても穏やかにその人らしい生活が送れるように努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方とは家族と接しているがそれ以上に人生の先輩として見ており、声かけや対応にも敬意を表している。個人記録に関しては人目に触れないような場所で保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の方とは常に接しており、様々な話をする上で本人の希望を職員が察知し、あくまで利用者本意で暮らして頂けるよう、支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペース、その人らしさを十分に理解し、無理なく生活してもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	約2ヶ月に一度、近くの理容師の方に来所してもらい、散髪をおこなっているが、なじみの美容室があったり、家族の希望する美容室がある場合には送迎の援助を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている	重度の利用者が多いため利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけを行うのは困難である。その中で利用者の方にはその人ができることをやってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者本人が好むものを提供できるように努力をしている。天ぷらが好きな方には天ぷらを出し、甘いものが好きな方にはおやつに饅頭を出したり、楽しめるように工夫をしている。	

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄はトイレが基本と認識し、尿意がない方もトイレへとお連れし、トイレでの排泄を促している。出来る限りオムツへの汚染をしないように、各入居者の排泄のリズムに合わせてトイレ誘導をしている。また、尿量に応じてオムツの使い分けをし、本人の状態に合わせて下着とオムツの検討をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金を入浴日としている。しかし、本人が希望されれば曜日に関係なく入浴できるように努力している。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの疲れ具合、不穏の程度に応じて、無理なく生活が送れるよう、適度な休息・安心した睡眠をとってもらっている。また、一人で眠るのが不安だという入居者の方に関しては、安心してできるように声をかけたり、となりで添い寝をするなど、落ち着いてもらうために援助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりに合った役割を支援している。決して押し付けではなく、本人が出来ることを継続してやってもらうことで生きがいや楽しみが持てるように、職員はその都度サポートをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大事さは理解しているが、重度の利用者が多いため、金銭管理ができない利用者に関しては事務室にて厳重に預かっている。が、本人が出かける際には持ち出し、希望があればご自分で使えるように支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があるときに限らず、天気の良い日には散歩や買い物、ドライブなどに出かけ、気分転換を心がけている。また、天気が悪い日でも他のユニットに遊びに行くなどの支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や、近くのレストランでの会食を家族の方と一緒にされたり、ドライブに行く際でも可能であれば複数を誘い、本人の希望を聞いて、行きたい場所へ赴く援助をしている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度の利用者が多いため、自分で字を書くことが困難な利用者が多いが、その方には職員が代筆で手紙を書いたり、家族や友人など、その人にとって大切な人には電話での会話を援助するようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等については気軽に訪問でき、面会時には居心地良く過ごせるようにゆっくり居室で過ごしてもらい、お茶を出したり、職員が明るい雰囲気を作ったりと、サポートしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が、身体拘束はしないという強い信念を抱いており、身体拘束は行ったことは無い。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に施錠をすることは本人の心理的圧迫につながるため、断じてそのようなことは行っていない。本人が外出したいときは職員がその意思を汲み取り、一緒に外出するなど気がけて援助を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーに常に配慮している。また、昼夜を通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品に関しては危険のないよう、入居者の目に入らない場所を保管場所とし、補充する際も入居者の目に入らないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態に応じて起こり得る事故のリスクについてはカンファレンスやミーティングの際に話しあい、事故防止のための対策を考え、取り組んでいる。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会にて、心配蘇生法や応急手当や初期対応については全職員が行ってはいるが、定期的にはおこなっているとは言い難い。	○	緊急時の対応を学ぶために、新人の職員が入社してきた際などに定期的に講習会を実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防訓練を行い、初期消火・避難訓練(昼間・夜間)・通報・消防設備の説明を受ける上で安全に利用者を避難させることができるよう、全職員がこころがけている。	○	昨年の12月に事業所全館にスプリンクラーを設置した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては家族等に説明を行っており、その上で最善の方法、対応策を共に考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックの際に、血圧・体温・脈拍を測定し、利用者の状態把握に努めている。普段と違う状態があれば医療機関への早めの受診を行っている。職員は各利用者一人ひとりの変化や異常のサインを早期に発見する目を養う努力をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、正確な服薬ができるように管理をし、症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防のために水分を多く摂ってもらったり、体をよく動かしてもらうことによって便秘の解消に努めている。またトイレ時には腹部のマッサージを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内のケアについては、ほとんどの利用者をご自分で出来ない方が多いため、職員が口腔ケアを行い、チェックをしている。異常があれば歯科医師の方に往診してもらい、適切な受診を心がけている。また、自分で歯磨きが出来ない方にはできる限りのことをしていただいている。義歯はポリドントにて洗浄を行っている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は日頃の摂取量から把握ができています。水分量については、高齢者は脱水症状を起こしやすいため、最低でも一日1.5リットルを飲んでもらうようにこまめに提供を行っている。	○	栄養バランスについては栄養士の適切なアドバイスを受けたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員全員にインフルエンザの予防接種を受けてもらっている。また、感染症対策委員会を設置し、予防策や対応策についてのマニュアルを作成している。また、職員は外部研修に参加したり、月に一度のホームの勉強会で課題としてとりあげるなど、積極的に知識と技術を学んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん、まな板、包丁は毎日ハイターにて消毒をしており、食中毒の予防に努めている。また、新鮮で安全な食材を使うよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	その季節に咲く花やその時期のものを用いて玄関回りや建物周囲の空間作りを行っている。その中には、入居者やデイサービス利用者が製作したものも数多くある。親しみやすく暖かい雰囲気になるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間はゆったりとしており、置物や飾ってあるものは家庭的な物にしている。TVなどの音の大きさに気を使いながら、照明は日差しの強さに応じ、カーテン等も使い、調節をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者がそのペースに合わせて、独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせるようにソファや食事の際のテーブルの配置にも工夫をしている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はなるべく本人がなじんで使用していた家具等を置いてもらい、家族の方とも相談をして本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気を心がけ、エアコンに関しても過剰に使用せず、冬は22℃、夏は26℃前後を保てるように努めている。また、加湿器なども使用し湿度にも気を使っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の身体の状態に応じながら、ベッド周辺器具の設置、生活上の介助方法を随時変更し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや各居室の前には家庭的な雰囲気を保ちつつ、入居者が混乱しないように表札などを掲げている。また、本人の持っている力に合わせて、なるべく自立して暮らせるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは近所の方が通路として良く使用しており、通られる際には挨拶をしてくれるため、憩いの通路として花を置くなど、利用者、近所の方が楽しめるように努めたい。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームながよ ゆとりの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

全職員が「安定と軽減と穏やかな生活」という理念の実現にむけて取り組んでいます。
家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、認知症の進行を少しでも緩やかにし、安定した穏やかな生活を提供できるように、職員は、入居者一人ひとりの環境として、家族として支援をしています。